

五城目町 町民まちづくりアンケート調査結果
(抜粋)

五城目町
令和元年 11 月

目 次

I	調査の概要	1
II	回答者の属性	2
III	調査結果	
1	五城目町の暮らしに関する調査	5
2	五城目町の取り組みの満足度・重要度に関する調査	7
3	五城目町の将来人口推計に関する調査	9
4	地方創生 「しごとづくり」に関する調査	11
5	地方創生 「移住・定住対策」に関する調査	14
6	地方創生 「少子化対策」に関する調査	17
7	地方創生 「地域づくり対策」に関する調査	19

I 調査の概要

1 調査の目的

五城目町では、平成 28 年 1 月に、5 か年の目標や施策の基本的方向、具体的な施策をまとめた「五城目町まち・ひと・しごと創生総合戦略（平成 27 年度～平成 31 年度）」を策定し、また、平成 29 年 2 月には町の最上位計画である「五城目町総合発展計画」の後期基本計画（平成 29 年度～平成 33 年度）を策定し、事業を実施している。

今年度は総合戦略における計画期間の最終年度であり、住民の意識調査を行い次期総合戦略策定の検討資料とすること、また、総合発展計画の目標指標を確認することを目的に、アンケート調査を実施したものです。

2 調査の項目

- (1) 五城目町の暮らしに関する調査
- (2) 五城目町の取り組みの満足度・重要度に関する調査
- (3) 五城目町の将来人口推計に関する調査
- (4) 地方創生 「しごとづくり」に関する調査
- (5) 地方創生 「移住・定住対策」に関する調査
- (6) 地方創生 「少子化対策」に関する調査
- (7) 地方創生 「地域づくり対策」に関する調査
- (8) これからのまちづくりへの意見・提案に関する調査

3 調査の方法

- (1) 調査対象 五城目町内在住の 18 歳以上の住民
- (2) 対象者数 1,000 人
- (3) 調査方法 郵送による調査票の配布・回収
- (4) 調査期間 令和元年 10 月 31 日（木）～同年 11 月 11 日（月）

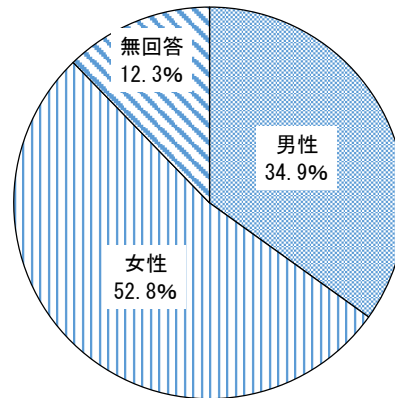
4 回収の結果

調査票送付数	1,000 件
総回収数	424 件
有効回収数	424 件
無効回収数	0 件
回収率	42.4%
有効回収率	42.4%

Ⅱ 回答者の属性

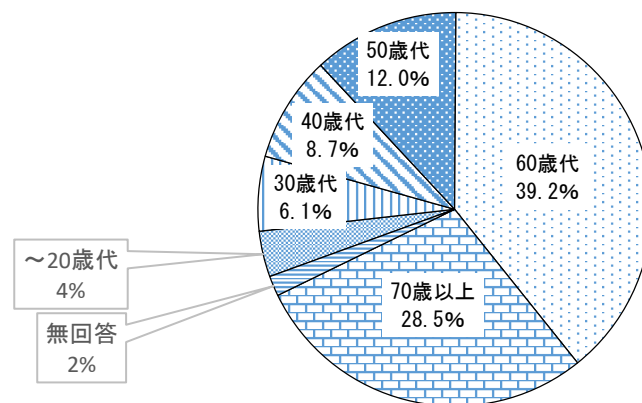
【問1】 あなたのことについて記入してください。

(1) 性別



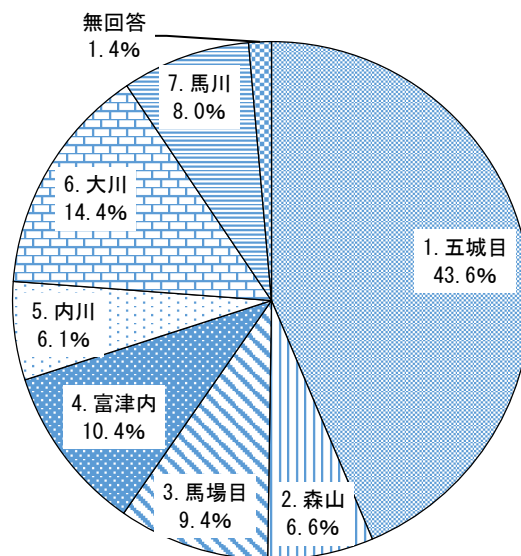
No.	カテゴリー名	n	%
1	男性	148	34.9
2	女性	224	52.8
	無回答	52	12.3
	全体	424	100.0

(2) 年齢



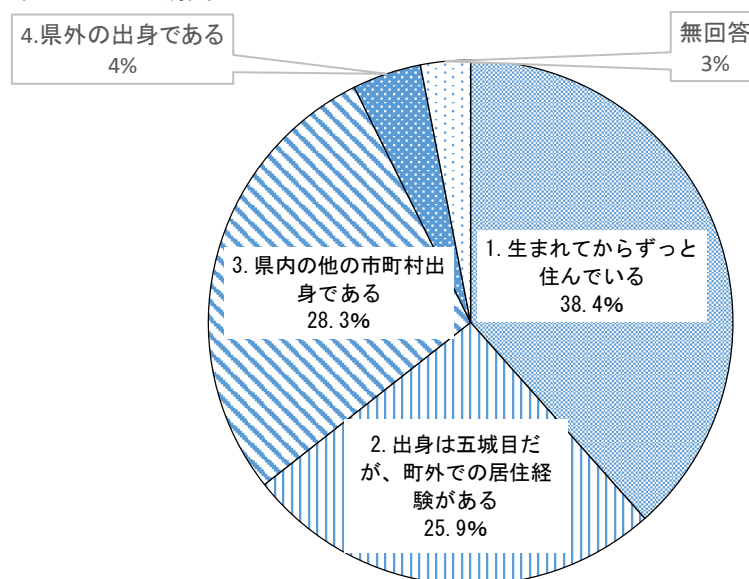
No.	カテゴリー名	n	%
1	~20歳代	16	3.8
2	30歳代	26	6.1
3	40歳代	37	8.7
4	50歳代	51	12.0
5	60歳代	166	39.2
6	70歳以上	121	28.5
	無回答	7	1.7
	全体	424	100.0

(3) 居住地区



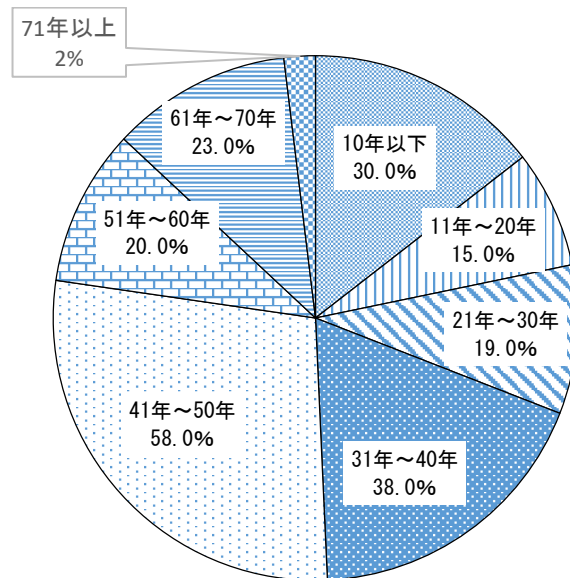
No.	カテゴリー名	n	%
1	五城目	185	43.6
2	森山	28	6.6
3	馬場目	40	9.4
4	富津内	44	10.4
5	内川	26	6.1
6	大川	61	14.4
7	馬川	34	8.0
	無回答	6	1.4
	全体	424	100.0

(4) 現在の町内に住んでいる期間



No.	カテゴリー名	n	%
1	生まれてからずっと住んでいる	163	38.4
2	出身は五城目だが、町外での居住経験がある	110	25.9
3	県内の他の市町村出身である	120	28.3
4	県外の出身である	18	4.2
	無回答	13	3.1
	全体	424	100.0

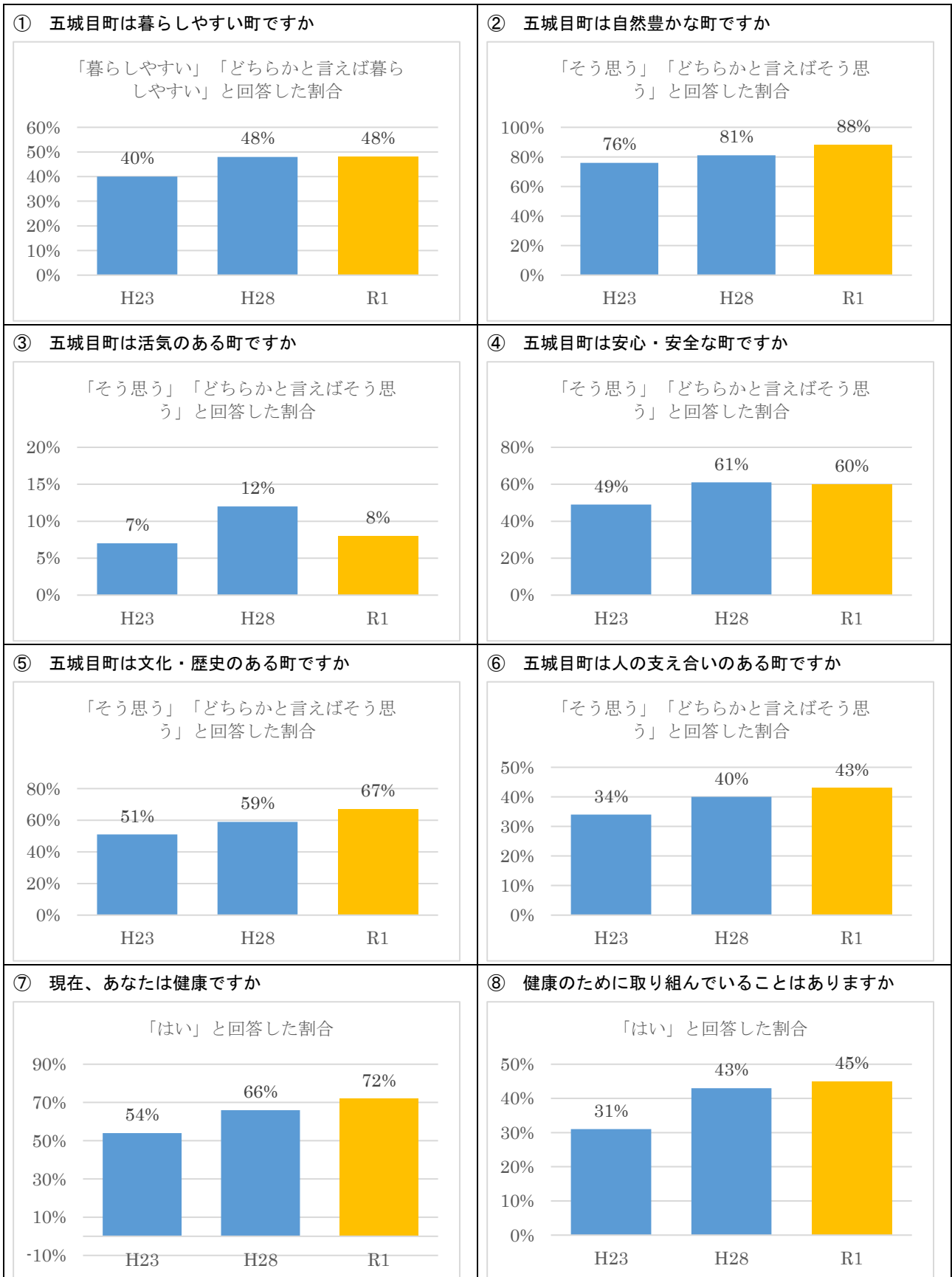
※ 居住年数



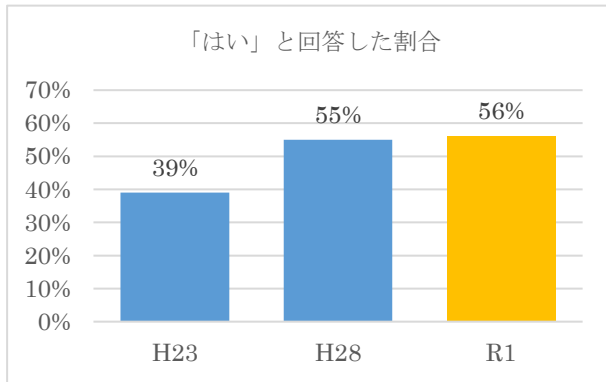
Ⅲ 調査結果

1 五城目町の暮らしについて

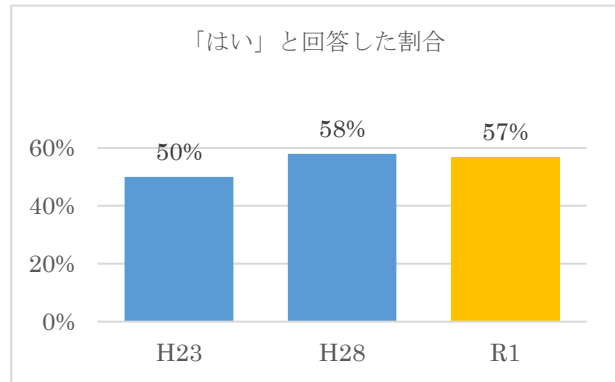
(比較のため、平成23年度、28年度のアンケート結果も表示しています。)



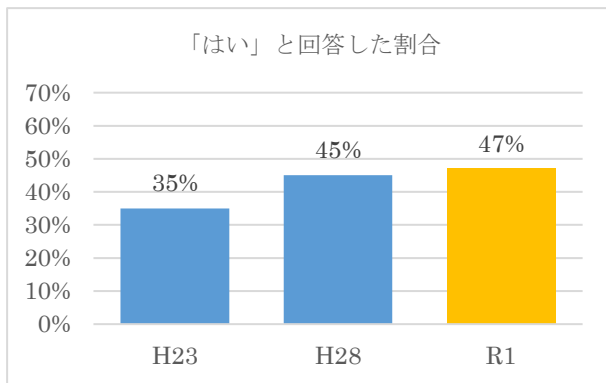
⑨ 毎日、生きがいを持って暮らしていますか



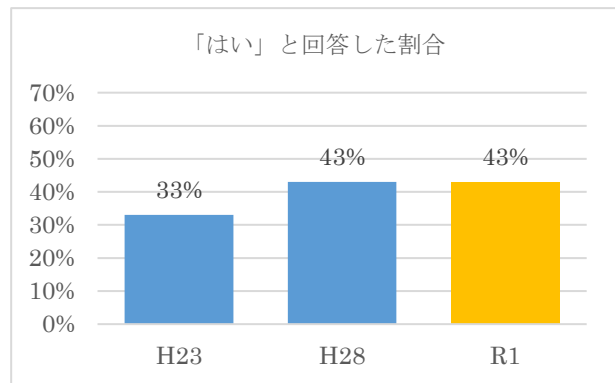
⑩ 近所の親しい付き合いがありますか



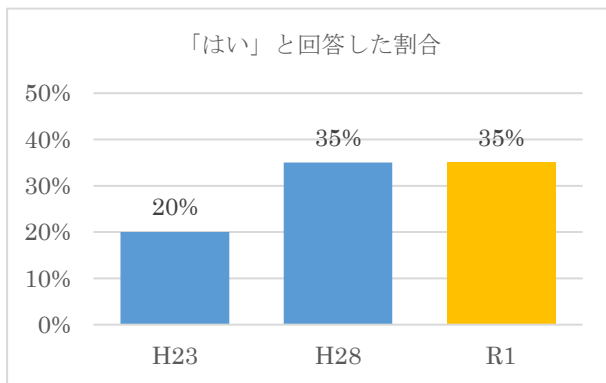
⑪ 町内会活動やボランティアなどに参加していますか



⑫ 町の伝統や文化に愛着を感じていますか



⑬ 町内で行事が盛んに行われていると思いますか

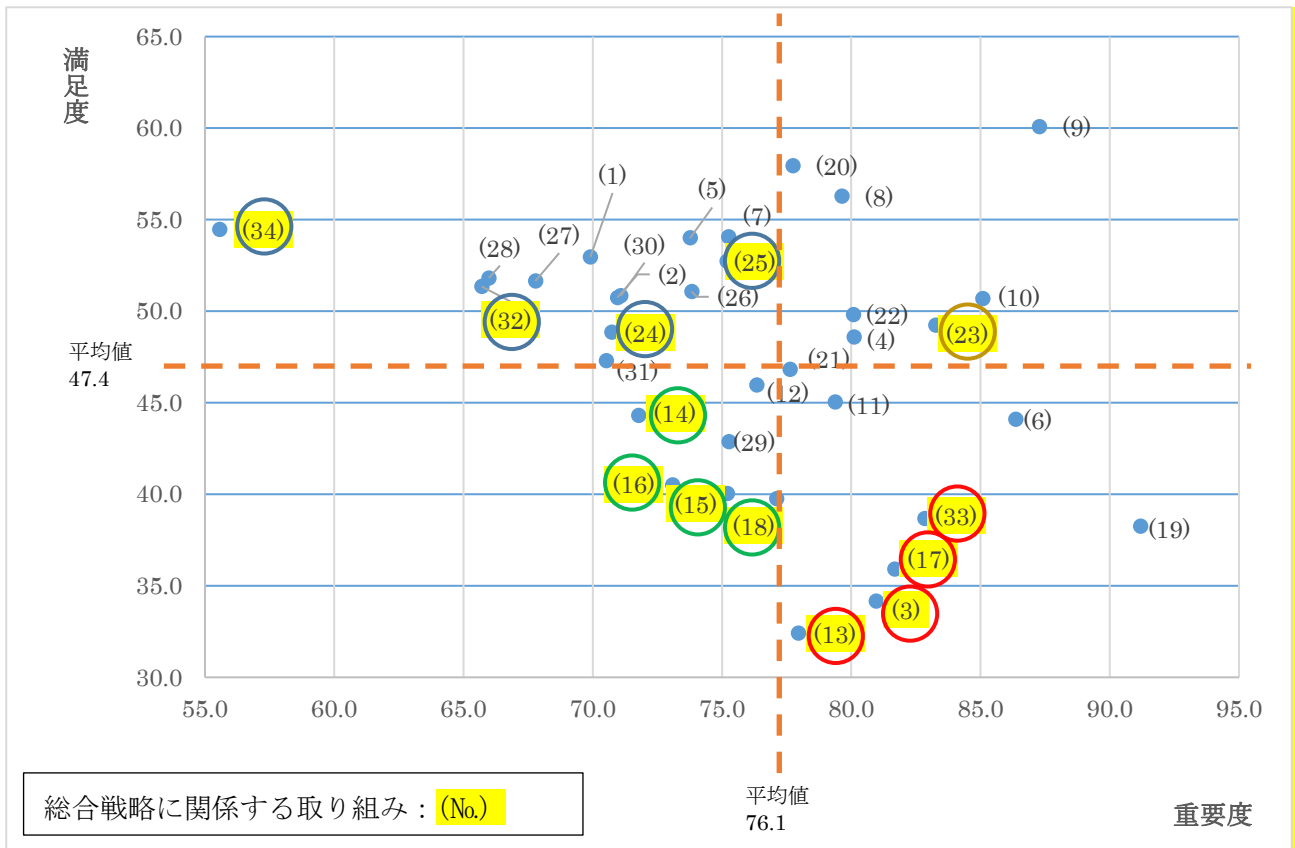


2 五城目町の取り組みの満足度・重要度について

【問6】 次の項目について、あなたの暮らしにとってどのくらい満足し、重要性を感じていますか。

項目ごとにあてはまるものを1つ選んで○をつけてください。

No.	項 目	満足度	重要度
(1)	自然と調和したまちなみ・景観づくり	53.0	69.9
(2)	自然環境の保全活動	50.7	71.0
(3)	利用しやすい公共交通体制	34.2	81.0
(4)	安全で便利な道路	48.6	80.1
(5)	住宅住環境	54.0	73.8
(6)	除排雪対策	44.1	86.4
(7)	ごみの減量化・リサイクル対策	54.1	75.3
(8)	交通安全・防犯対策	56.3	79.6
(9)	緊急時も安心な消防・救急体制	60.1	87.3
(10)	地震などに対する防災対策	50.7	85.1
(11)	ごみの不法投棄の未然防止	45.0	79.4
(12)	省エネルギー対策、地球温暖化防止への活動	46.0	76.3
(13)	空き家対策	32.4	77.9
(14)	農林業の振興	44.3	71.8
(15)	商工業の振興	40.0	75.2
(16)	観光の振興	40.5	73.1
(17)	地元での起業や雇用機会の拡充・創出	35.9	81.7
(18)	農業・商業・観光など産業間の連携	39.8	77.1
(19)	安心できる医療体制（救急医療を含む）	38.3	91.2
(20)	地域ぐるみの健康づくりや健診による予防対策	57.9	77.7
(21)	障がいのある人が暮らしやすい生活支援や環境の整備	46.8	77.6
(22)	高齢者への生きがいづくりや生活支援（介護予防など）	49.8	80.1
(23)	安心して子どもを産み、育てられる、子育て支援（育児相談、保育所など）	49.2	83.3
(24)	支え合い・ボランティア活動への町民参加	48.9	70.7
(25)	特色のある小中学校での教育	52.7	75.2
(26)	青少年の健全育成	51.1	73.8
(27)	生涯学習の活動や環境	51.6	67.8
(28)	健康づくりや町民交流を深めるスポーツ・レクリエーション活動	51.8	66.0
(29)	行財政の効率化・合理化	42.9	75.3
(30)	町政に関する情報公開、広報活動	50.8	71.1
(31)	町民との協働のまちづくりの推進	47.3	70.5
(32)	地域における町内会活動の推進	51.3	65.7
(33)	若者の移住定住の促進	38.7	82.8
(34)	千代田区との交流・連携	54.5	55.6
	平 均	47.4	76.1

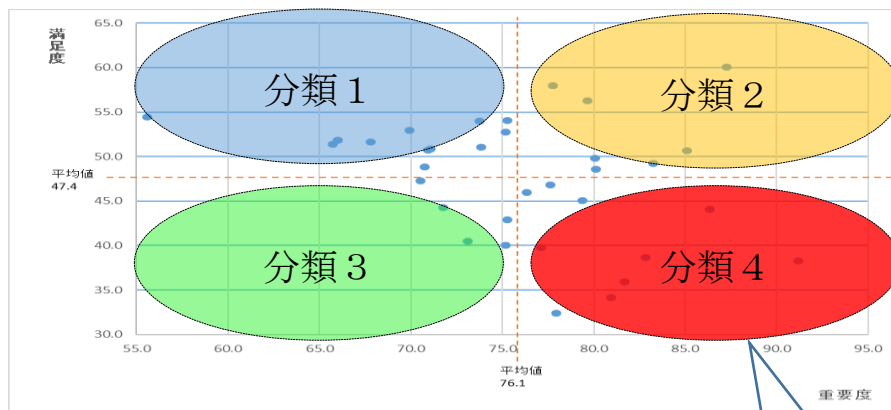


(参考)

評価分散図の見方

アンケートの結果（5段階）を「満足度指数」及び「重要度指数」として数値化し、それぞれの施策の「満足度」及び「重要度」を次のような4つの分類で評価しています。

町の取り組みに対する評価（見方）



分類1：満足度が平均値よりも高く、重要度が平均値よりも低い施策

⇒ 現在の取り組み内容を継続する。

分類2：満足度・重要度ともに平均値よりも高い施策

⇒ 引き続き現在の取り組みを継続し満足度を上げる

分類3：満足度・重要度ともに平均値よりも低い施策

⇒ 質の向上に取り組む必要あり

分類4：満足度が平均値よりも低く、重要度が平均値よりも高い施策

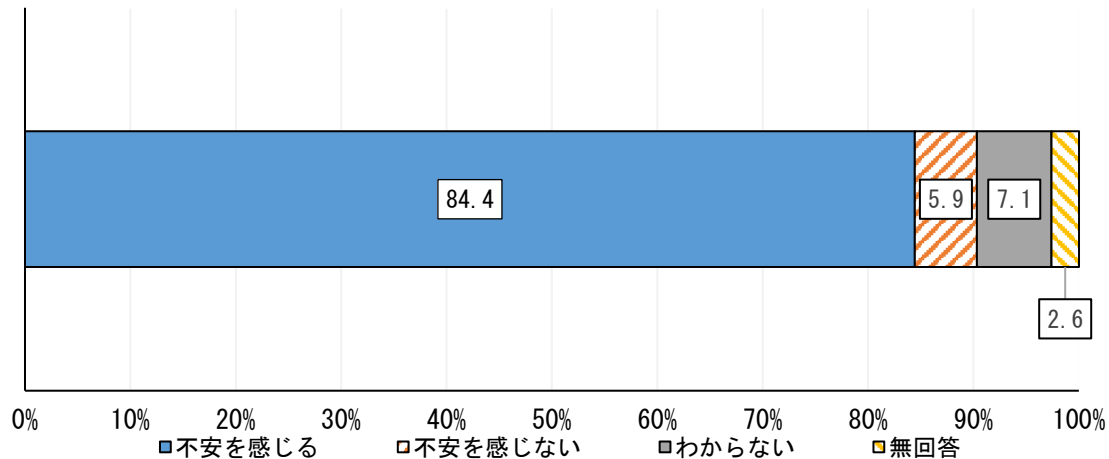
⇒ 現在の取り組みを強化・改善しながら取り組む必要あり

「しごとづくり」
「移住・定住対策」
などの強化が求められている

3 五城目町の将来人口推計について

【問7】 あなたは、五城目町の人口推移予測について、どのように思いますか。

「不安を感じる」が84.4%であり、人口推移予測について不安を感じている人が8割を超えている。

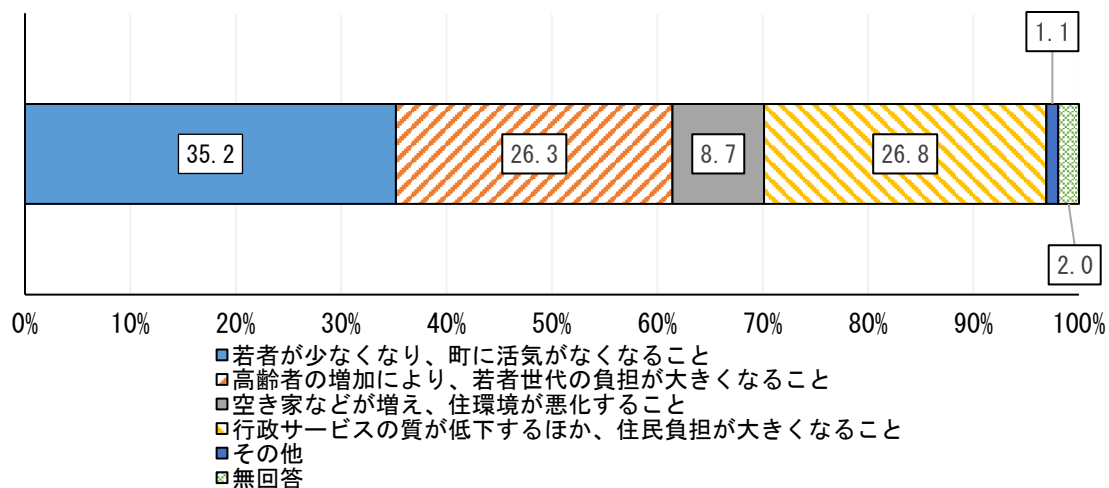


【問8】 【問7】で「1. 不安を感じる」を選択した方におたずねします。

具体的にどのようなことに最も不安を感じますか。

「若者が少なくなり、町に活気がなくなること」が35.2%で、町の活気に関して不安を持つ人が最も多い。

続いて、「行政サービスの質が低下するほか、住民負担が大きくなること」、「高齢者の増加により、若者世代の負担が大きくなること」がともに26%台である。「空き家などが増え、住環境が悪化すること」は8.7%である。



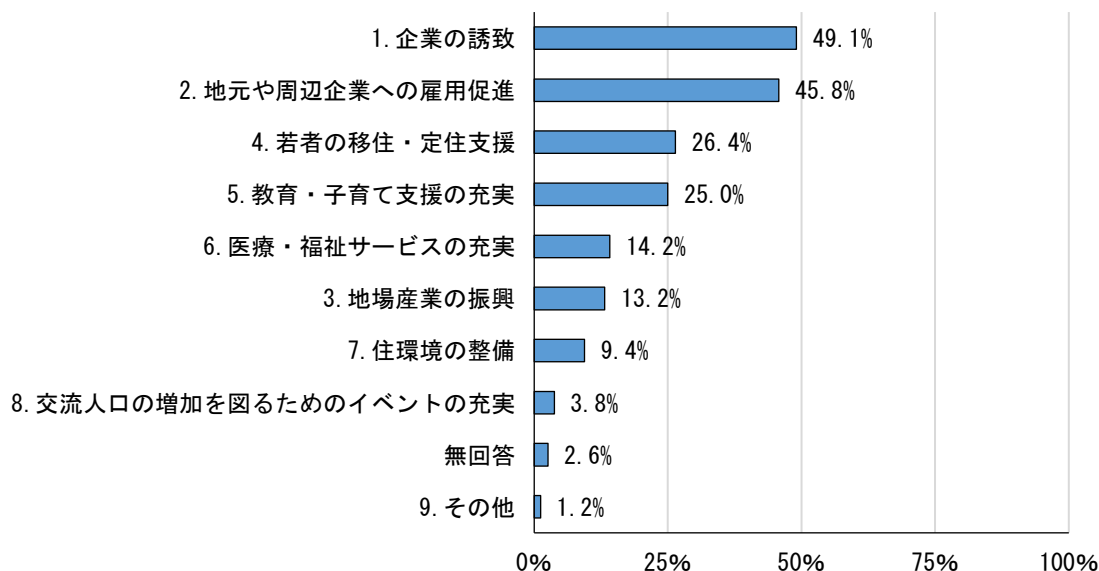
5. その他

- ・人口減少がすべての面（経済・行政など）にマイナスになる
- ・1つと言われません。全部あてはまります。
- ・介護保険料の高額負担に手取りの年金で生活が出来るのか？
- ・このようなグラフを作るばかりで、日本全体が子供を増やす努力をしているように思えないところに不安を感じます。3人、4人、5人と子供を産んでくれた人は年金を多くもらえとか、(その子供が年金を払うのだから)国が本気で変わらないと人は増えない。
- ・町（行政）の機能不全

【問9】 あなたは、五城目町において、若者の減少を抑えるためにどのような施策が必要であると思いますか。【2つまでに○】

「企業の誘致」の49.1%、「地元や周辺企業への雇用促進」の45.8%がともに4割を超え、産業・雇用面の施策を求める人が多い。

続いて「若者の移住・定住支援」が26.4%、「教育・子育て支援の充実」が25.0%、「医療・福祉サービスの充実」が14.2%、「地場産業の振興」が13.2%である。



9. その他

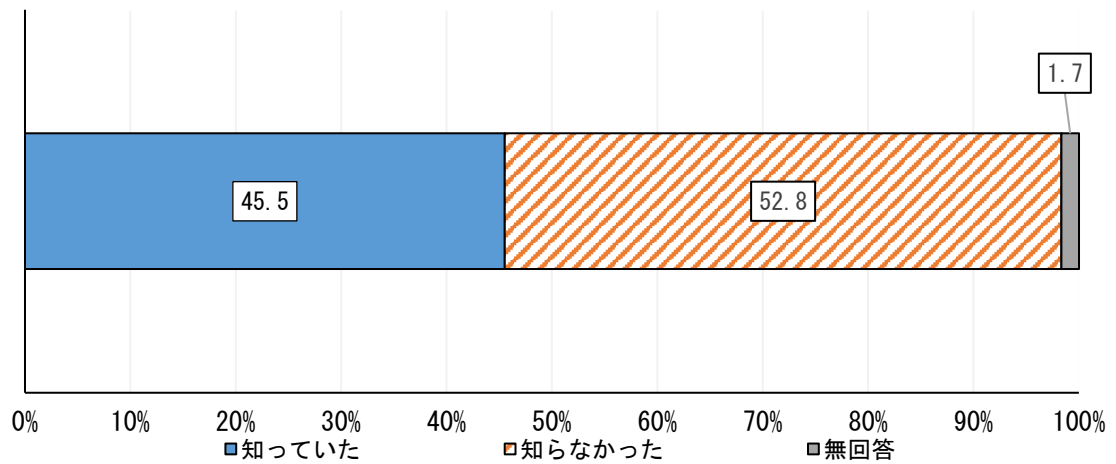
- ・町内の企業の給料が高い方が良くと思う
- ・将来に不安のない賃金収入企業
- ・学園都市計画
- ・議員数多過ぎ。半数で良い。役場職員は金もらい過ぎ30%カット！！町民に負担かけ過ぎ
- ・若者の負担を少なくする
- ・公共交通の利便性（JR を使いやすいようにする）

4 地方創生「しごとづくり」について

【問10】 町では、若い世代の定着を図るため、産業振興や雇用創出を促す「しごとづくり」として、町内企業に対する雇用奨励支援、商品開発や販路開拓などの支援、起業する方に対する創業準備などの支援を行っています。

あなたは、町がこのような取り組みを行っていることを知っていましたか。

「知っていた」が45.5%と4割を超えるものの、「知らなかった」が52.8%であり、約半数の人はこの取り組みについて知らなかった。



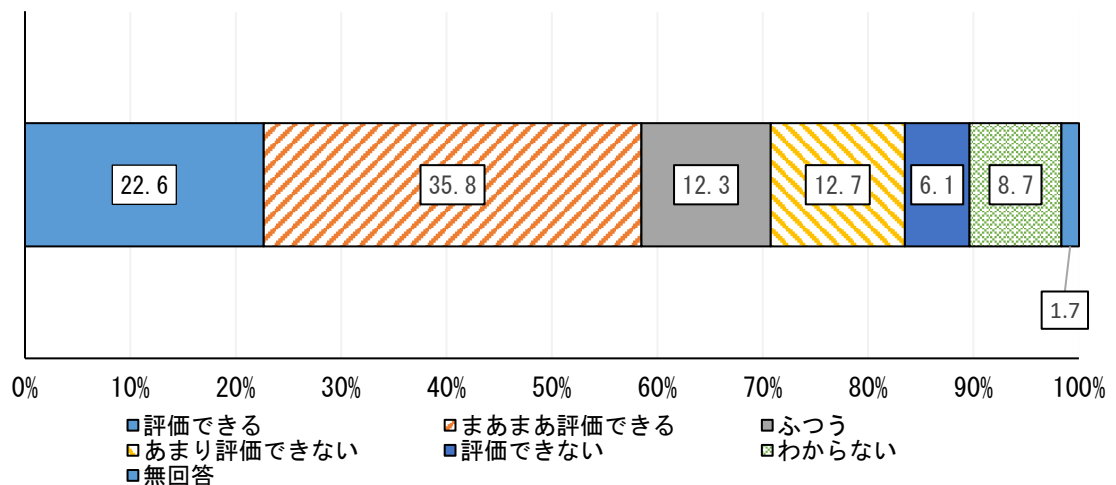
【問11】 町では、町内企業に対して、新たに社員を雇用した場合に、1人に対して30万円などの奨励金の交付を行っています。

平成27年度から平成30年度までの4年間で、延べ12社に対して奨励金を交付し、うち5社は農林業関係の事業者となっています。

これにより、新たに25人の雇用が確保されています。

あなたは、これらの取り組みをどのように評価しますか。

「評価できる」、「まあまあ評価できる」の合計が58.4%と6割近い。一方、「評価できない」、「あまり評価できない」の合計は18.8%であり、2割近くの人は評価が低い。

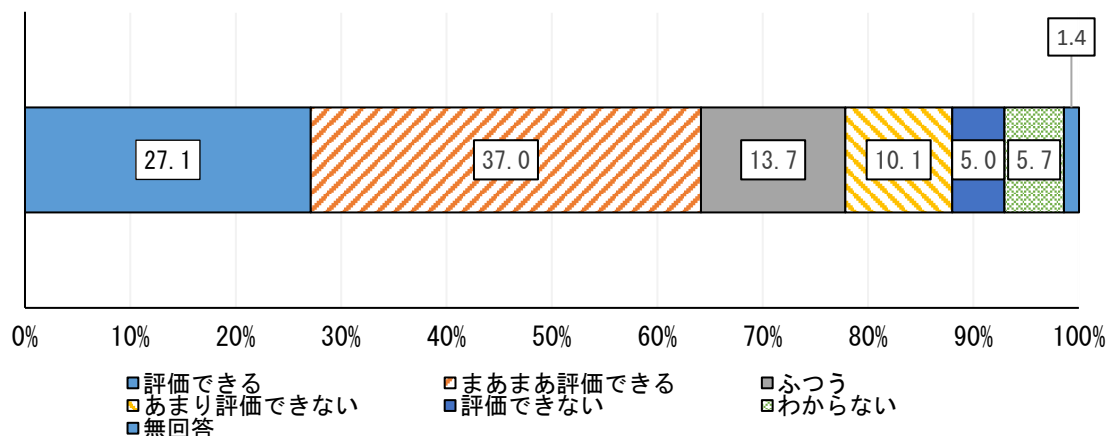


【問 1 2】 町では、町内企業に対して、商品開発や販路拡大、既存店舗改修などの経費の一部に対する支援を行っています。平成 27 年度から平成 30 年度までの 4 年間で、この支援制度を活用した企業は 15 件となっています。

これにより、新たにキイチゴを加工したお菓子やビールなどがつくられ、地場産業の振興が図られています。

あなたは、これらの取り組みをどのように評価しますか。

「評価できる」、「まあまあ評価できる」の合計は 64.1%と 6 割を超える。一方、「評価できない」、「あまり評価できない」の合計は 15.1%である。

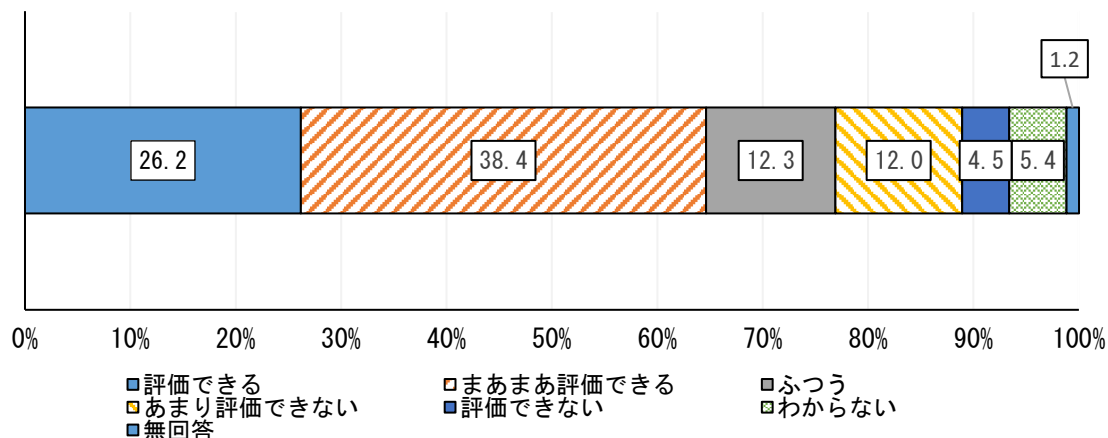


【問 1 3】 町では、起業する方に対して、事業活動を行うための建物や備品の整備などの経費の一部に対する支援を行っています。平成 27 年度から平成 30 年度までの 4 年間で、この支援制度を活用した起業者は 7 件で、うち 5 件は町外から移住して起業された方となっています。

これにより、町中心市街地に新たにカフェがオープンするなど、事業活動の活性化が図られています。

あなたは、これらの取り組みをどのように評価しますか。

「評価できる」、「まあまあ評価できる」の合計は、64.6%と 6 割を超える。「評価できない」、「あまり評価できない」の合計は 16.5%である。



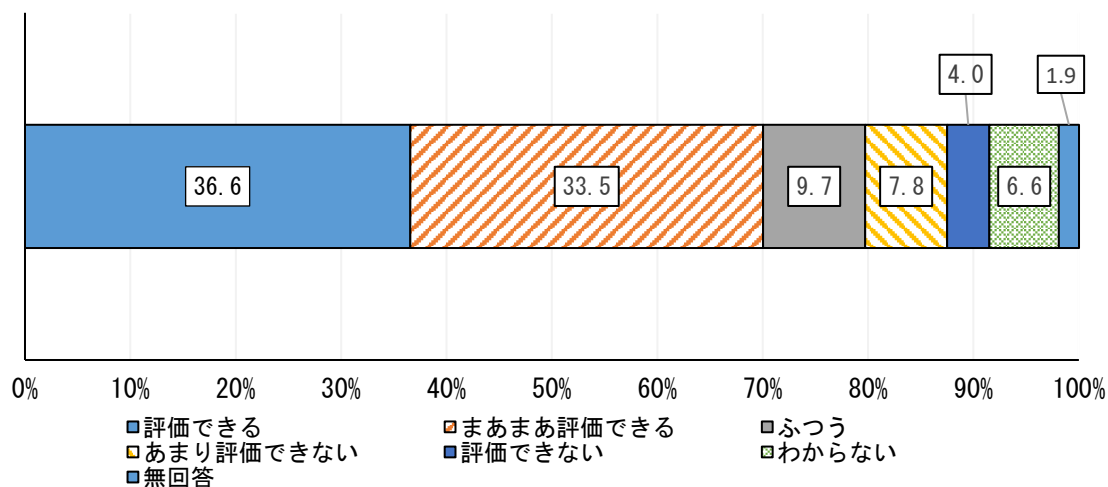
【問 1 4】 町では、起業を目指してチャレンジする方を支援するとともに、町内での働く場を増やすため、平成 2 5 年度に廃校となった馬場目小学校を活用し、レンタルオフィスとして「地域活性化センター」を開設しています。

これまで、レンタルオフィスに入居した企業は 1 8 社となっています。

これにより、起業や移住希望者の視察も多く、年間 5, 0 0 0 人を超える来館があり、起業活動などを行うための拠点となっています。

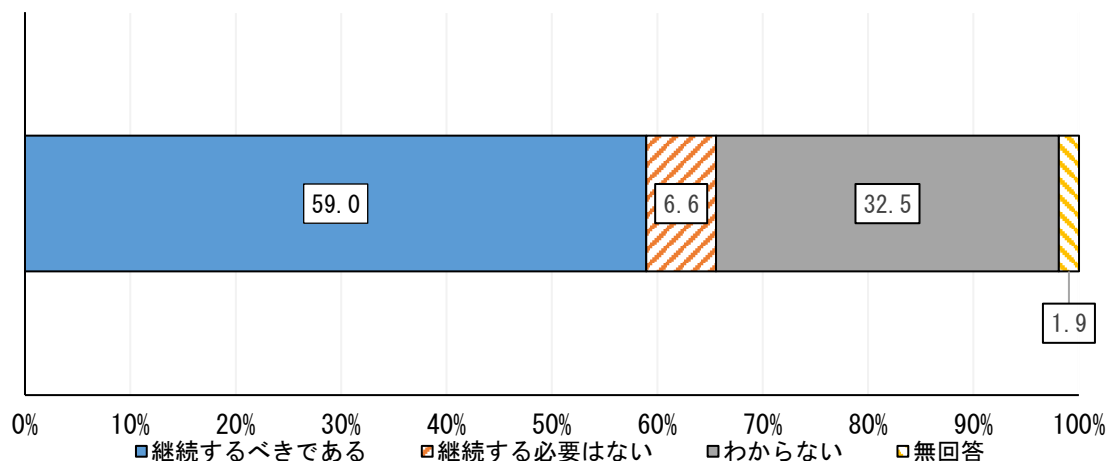
あなたは、地域活性化支援センターに関する町の取り組みをどのように評価しますか。

「評価できる」、「まあまあ評価できる」の合計が 70. 1% と約 7 割、「評価できない」、「あまり評価できない」の合計が 11. 8% である。



【問 1 5】 町では、【問 1 1】 から【問 1 4】 にありますように、町内における働く場や新たな仕事を増やすことを目的に、町内企業や起業を目指す方に対して様々な支援を行ってきました。あなたは、これらの支援について、今後どのようにするべきだと思いますか。

「継続するべきである」が 59. 0%、「継続する必要はない」が 6. 6% であり、約 6 割の人が継続を望んでいる。

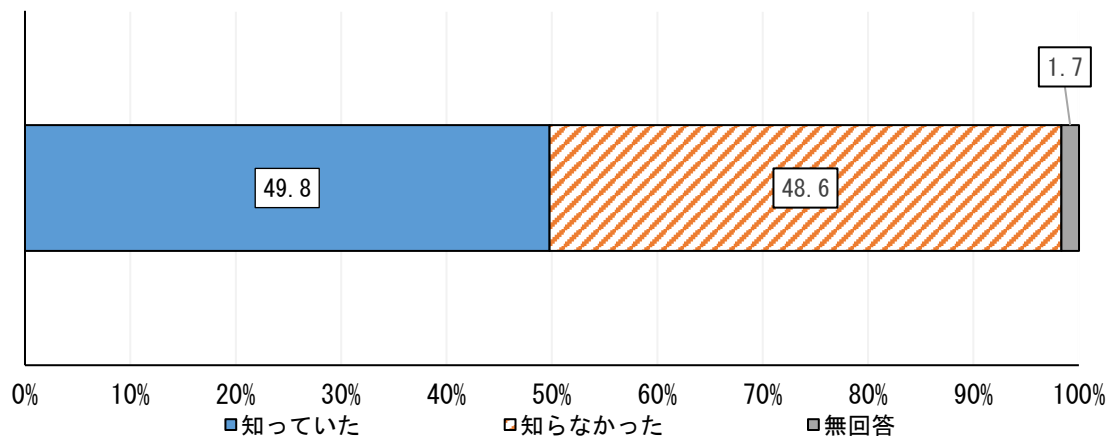


5 地方創生 「移住・定住対策」について

【問17】 町では、町外からの移住の促進を図るため、町出身者のUターンの促進など「移住・定住対策」として、首都圏において、町出身の若者などを呼び込むためのイベント開催や情報発信を行い、さらには、移住者の住居となる空き家を活用したイベントを行っています。

あなたは、町がこのような取り組みを行っていることを知っていましたか。

「知っていた」が49.8%、「知らなかった」が48.6%であり、知っている人と知らなかった人がほぼ半々である。



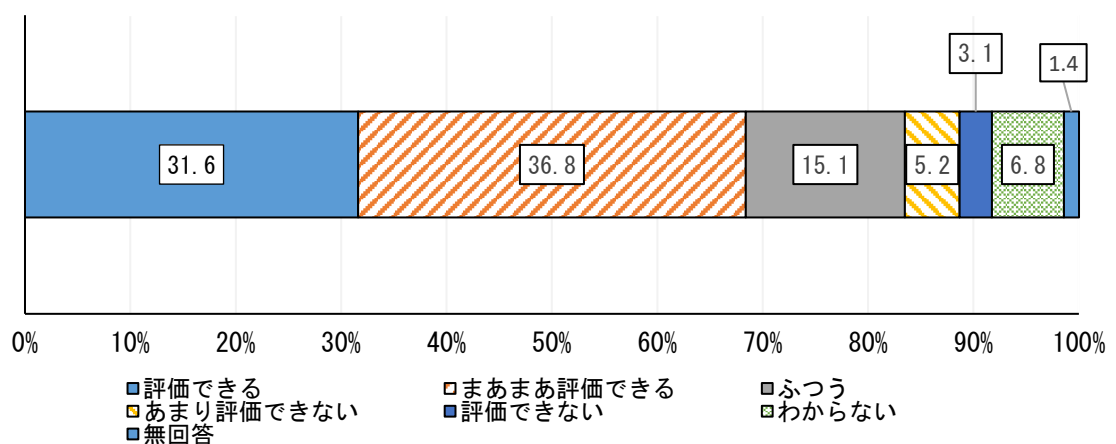
【問18】 町では、首都圏において大学生から40歳代までの若い世代を対象にイベントを開催し、五城目町出身者や関係者が集うコミュニティをつくり、情報提供や交流を重ねることで、Uターン促進を図っています。

平成27年度から平成30年度までの4年間で、首都圏イベントを7回実施し、参加者は延べ193人となっています。

この取り組みなどにより、首都圏から6世帯20人が町に移住しています。

あなたは、これらの取り組みをどのように評価しますか。

「評価できる」、「まあまあ評価できる」の合計が68.4%と7割近く、「評価できない」、「あまり評価できない」の合計は8.3%と1割を下回る。



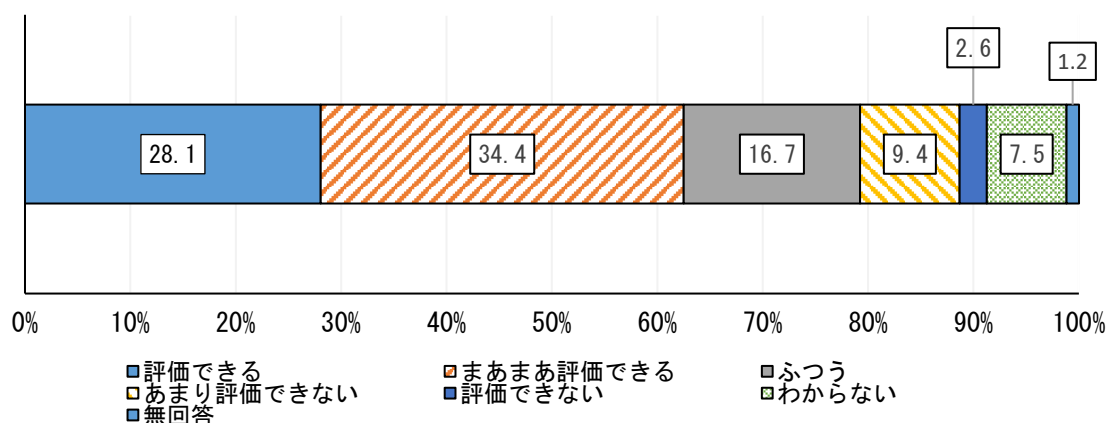
【問19】 町では、町内の空き家を活用した移住を促進するため、情報発信や移住者と地域住民が協力して行う空き家リフォームイベントに対する支援を行っています。

平成28年度から平成30年度までの3年間で、リフォームイベントを3回実施しています。

これにより、地域住民との交流も図られ、3世帯の定住につながっています。

あなたは、これらの取り組みをどのように評価しますか。

「評価できる」、「まあまあ評価できる」の合計が62.5%と約6割、「評価できない」、「あまり評価できない」の合計が12.0%である。

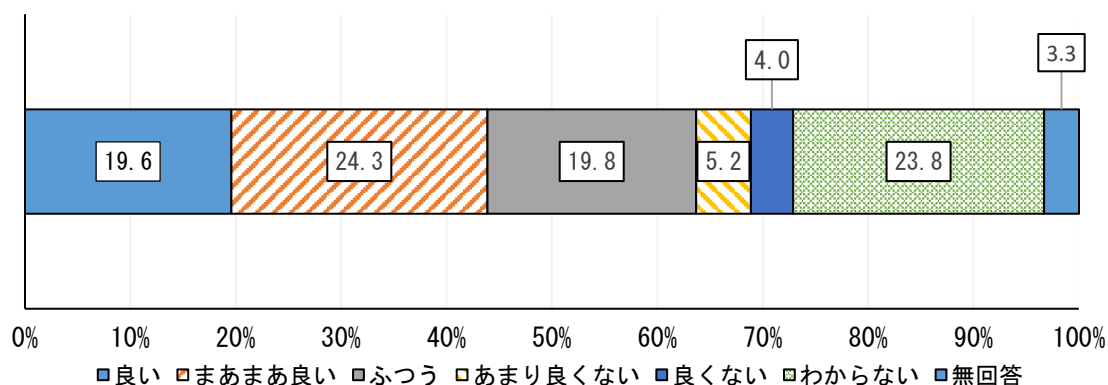


【問20】 町では、今年度、「観光以上・移住未満」の立場で地域活動や住民との交流を体験し、その後も交流を継続する体制を構築して、域外に住みながら主体的に地域と関わる人材「関係人口」を創出し、新たな視点を取り入れた地域づくりを促進するため、関西圏をターゲットに秋田県と共同で町のPRを行い、興味を持った方に町を案内し、町の魅力を発信し、抱えている地域課題などを一緒に考える機会を設けたりする事業を展開しています。

あなたは、この観光でもない、移住でもないスタンスで地域と関わる方々（関係人口）と行う、地域づくりの取り組みについてどう思いますか。

「良い」、「まあまあ良い」の合計が43.9%、「良くない」、「あまり良くない」の合計が9.2%であり、関係人口との地域づくりの取り組みについて評価する人が多い。

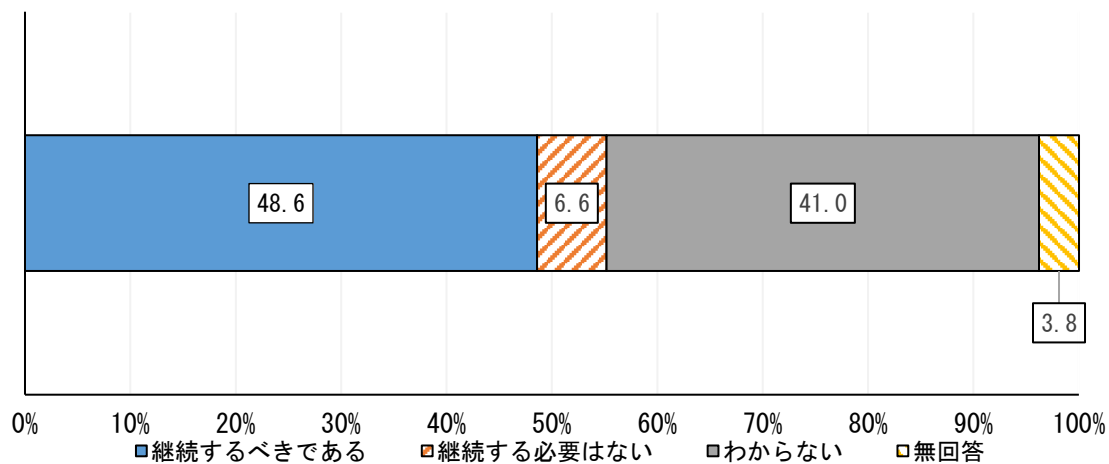
一方、「わからない」も23.8%と2割を超える。



【問21】 町では、【問18】から【問20】にありますように、若い世代を町に呼び込むことを目的に、首都圏でのコミュニティづくりなどを行ってきました。

あなたは、これらの取り組みについて、今後どのようにするべきだと思いますか。

「継続するべきである」が48.6%、「継続する必要はない」が6.6%であり、継続を望む人が多い。一方で、「わからない」が41.0%と4割を超える。

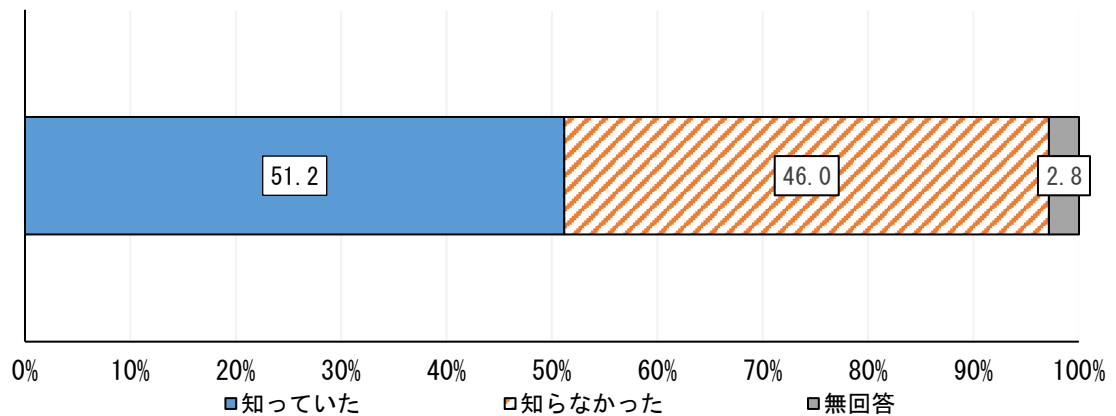


6 地方創生「少子化対策」について

【問23】 町では、子育てしやすい環境づくりを整備する「少子化対策」として、男女の出会いから結婚、出産、子育てまでの支援や制度のパッケージ化や国県の取り組みと合わせ医療費や保育料の助成制度拡充による経済的支援の充実などを行っています。

あなたは、町がこのような取り組みを行っていることを知っていましたか。

「知っていた」が51.2%、「知らなかった」が46.0%と大きな違いはないものの、知っていた人の方がやや多い。



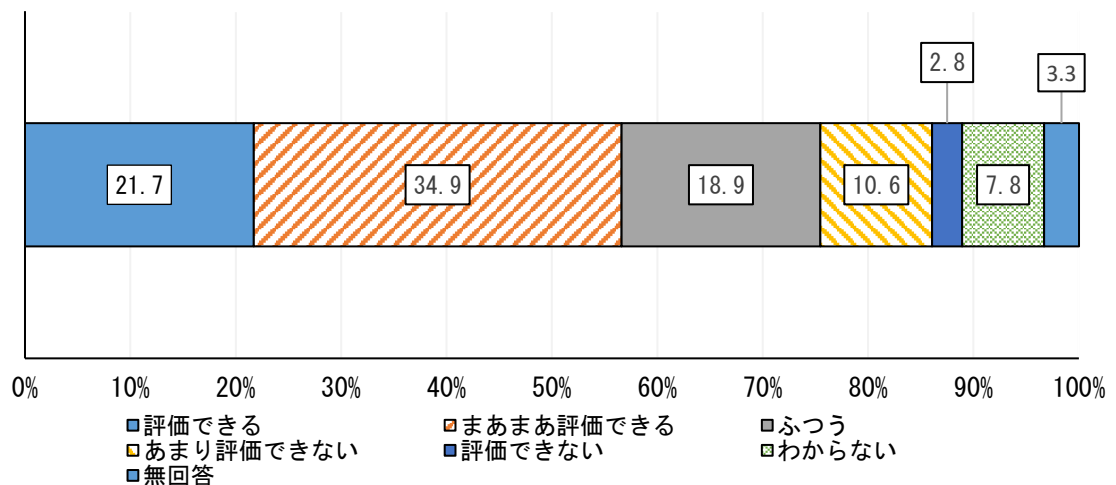
【問24】 町では、出会いから結婚までを支援するため、若者交流イベントの開催や結婚サポーターによる結婚相談などを行ったり、新婚さんの引っ越しや住居家賃などの費用の一部に対して支援を行ったりしています。

平成28年度から平成30年度までの3年間で、若者交流イベントは8回開催しています。

これらの取り組みにより、出会いの場の確保が図られ、2組の成婚につながっています。

あなたは、これらの取り組みをどのように評価しますか。

「評価できる」、「まあまあ評価できる」の合計が56.6%と5割を超え、「評価できない」、「あまり評価できない」の合計は13.4%と、評価する人が多い。



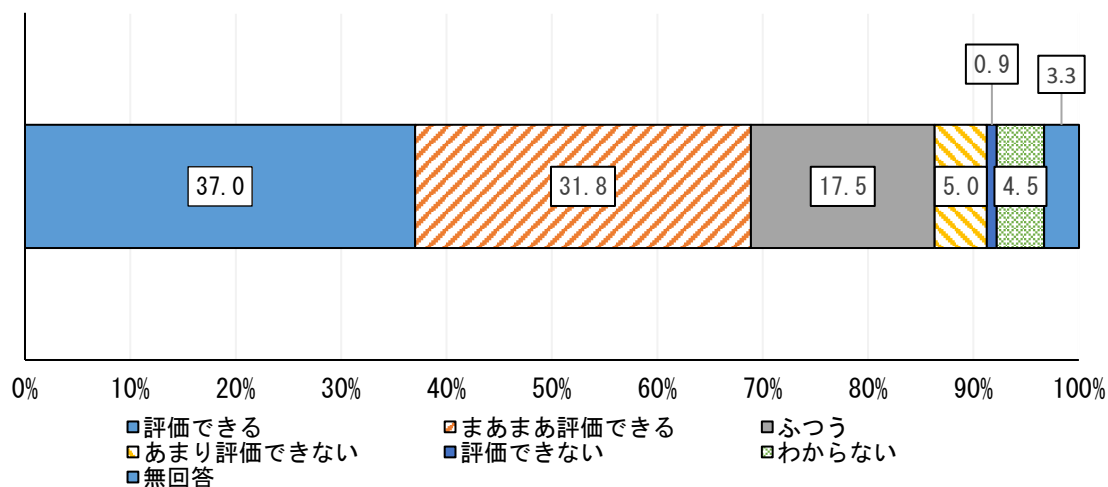
【問25】 町では、子育て世代の経済的な負担を軽減するため、医療費や保育料軽減のほか、誕生祝い金や子育て支援クーポン券の支給、チャイルドシート購入補助など町独自の支援を行っています。

平成27年度から平成30年度までの4年間で、誕生祝い金は170人（年間平均42人）に支給しています。

これらの支給などにより、第2子出生数は、ここ数年は20人に増えています。

あなたは、これらの取り組みをどのように評価しますか。

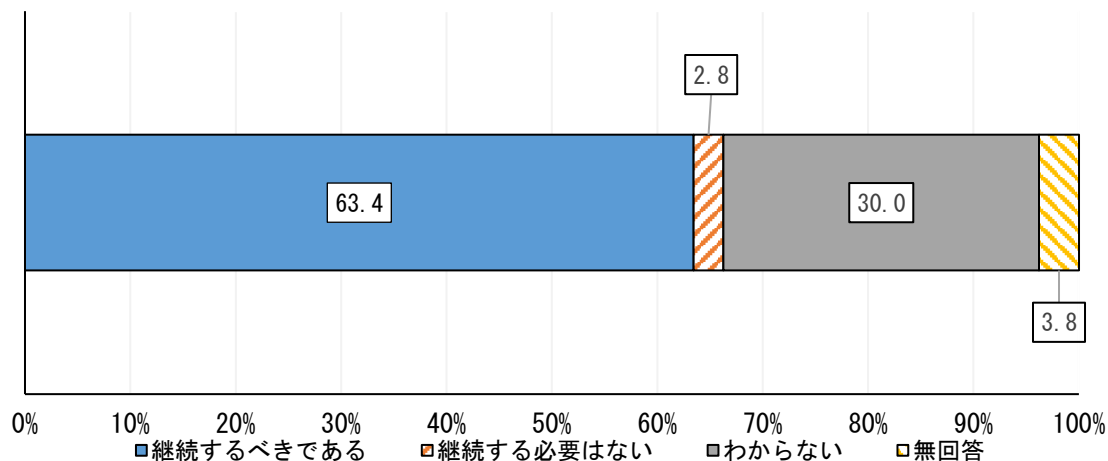
「評価できる」、「まあまあ評価できる」の合計が68.8%と7割近く、「評価できない」、「あまり評価できない」の合計は5.9%と、評価する人が多い。



【問26】 町では、【問24】や【問25】にありますように、男女の出会いや出生率の向上を目指すことを目的に、子育てしやすい環境を整備するため、様々な取り組みや支援などを行ってきました。

あなたは、これらの取り組みについて、今後どのようにするべきだと思いますか。

「継続するべきである」が63.4%、「継続する必要はない」が2.8%であり、継続を望む人が6割を超える。



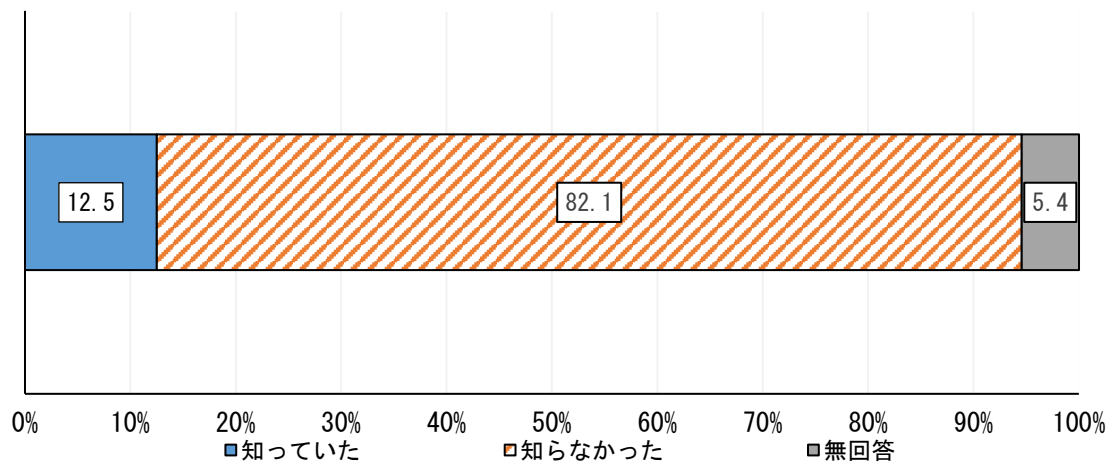
7 地方創生「地域づくり対策」について

【問28】 人口が減少しても、住みなれた地域で生活を継続させるため、複数の集落からなる住民が行政や事業者、各種団体などと協力・役割分担しながら「地域運営組織」をつくり、自分たちで「買い物サービス」や「地域住民の送迎サービス」のような取り組みを進めるなど「小さな拠点」を形成する事例が、全国的に増えています。

町では、今年度、秋田県と連携して、馬場目地区をモデル地区として、人口の安定化を図り、「小さな拠点」形成について、その可能性などについて検討を行っています。

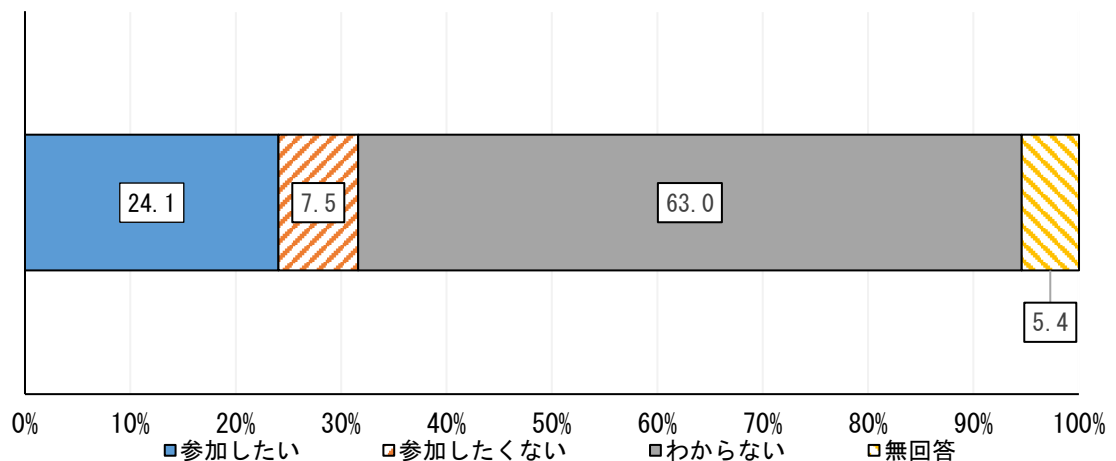
あなたは、町が複数の集落からなる地区単位で「小さな拠点」形成に向けた検討を行っていることを知っていましたか。

「知っていた」は12.5%、「知らなかった」が82.1%であり、8割を超える人は、町が「小さな拠点」形成に向けた検討を行っていることを知らなかった。



【問29】 あなたは、馬場目地区で現在行っているような話し合いなどの取り組みが、自分が住んでいる地区で行うこととなった場合、参加したいと思いますか。

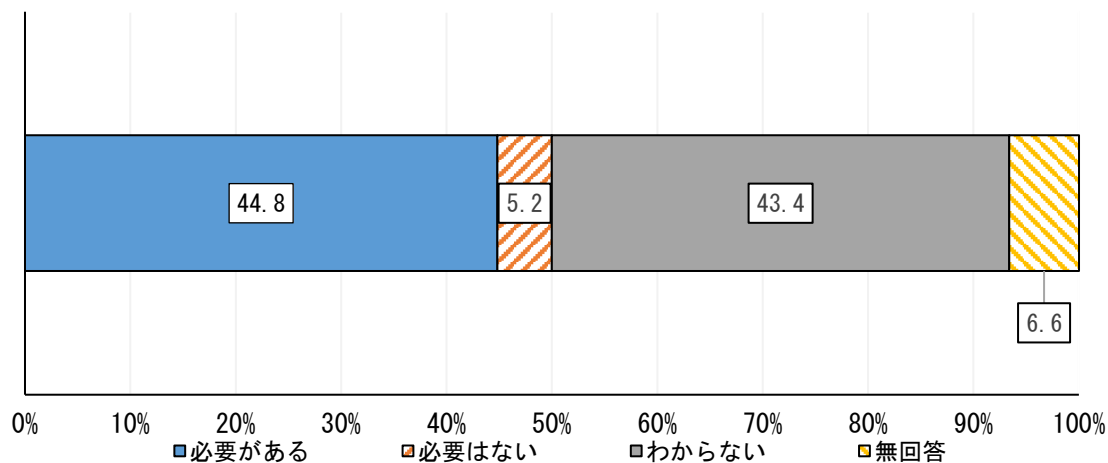
「参加したい」と考える人は24.1%と約4分の1、「参加したくない」と考える人は7.5%である。「わからない」が63.0%あり、考えを決めかねている人が多い。



【問30】 あなたは、人口減や少子高齢化を考えた場合、町内会での様々な活動を継続し、日常生活の課題解決に向けた取り組みを行うため、将来的には、複数の集落が連携し、「小さな拠点」を形成する取り組みを行う必要があると思いますか。

「必要がある」が44.8%、「必要はない」が5.2%であり、4割を超える人が「小さな拠点」を形成する取り組みの必要があると考えている。

一方、「わからない」という回答も43.4%と4割を超える。



【問31】 あなたは、自分の住んでいる地域で「小さな拠点」を形成とした場合、地域住民が主体となって行う事業活動として、どのような取り組みが必要だと思いますか。

【3つまで○】

「交通サービス」が49.1%で最も多い。「生活支援」の45.8%、「買い物支援」の43.6%、「高齢者の見守り活動」の36.1%が3割を超える。

続いて、「環境保全」の27.6%、「子どもの預かりサービスや子育て支援」の25.9%、「日用品や食料品などの販売店舗の経営」の11.3%が1割を超える回答だった。

